



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第 198 号 2026 年 10 月 24 日

ゴールド

原油価格上昇でインフレ懸念、ゴールドは 4100ドル割れ

シルバー

中国需要の予測以上の減速で、BloombergNEF は 2026 年の世界の太陽光パネル設置数予測を下方修正、前年比マイナス 11% の 584GW

プラチナ

Valterra は 2027 年 1 月から Tharisa の PGM 精鉱の 50% を購入する契約を締結

パラジウム

フランスとドイツは EU 圏内の 2035 年の自動車 CO₂ 排気ガス軽減目標を 100% から 90% に緩和することを提案

AI 関連のプラチナ需要、価格変動大きい中でも拡大

2026 年のプラチナ価格は 1 月下旬に 2992 ドルで最高値をつけた後、7 月下旬には年初来の安値となる 1535 ドルまで下落するなど、非常に大きく動いている。本稿執筆時の価格は 1650 ドル前後だが、依然として 2025 年の平均価格 1286 ドルを大きく上回っている。CME のファンドマネジャーポジションも変動が大きいですが、2026 年を通じてネットロングを維持している。2 月初旬はわずか 2.0 トン、4 月初旬は 25.8 トンとピークをつけ、本稿執筆時点では 10.9 トンまで減っている。

プラチナ価格は、金融政策見通しの変化、地政学リスクの高まり、投資家のポジションの変化を反映して動き、エネルギー市場の世界的な混乱、根強いインフレ懸念が金利予測を複雑にする。その一方で、国債利回りの上昇が貴金属に定期的にプレッシャーをかける。高い水準で価格が乱高下する状況は、特に宝飾品など価格に敏感な分野で実需に影響を与えているが、工業のプラチナ需要は AI 関連が支えとなって増加する見込みだ。

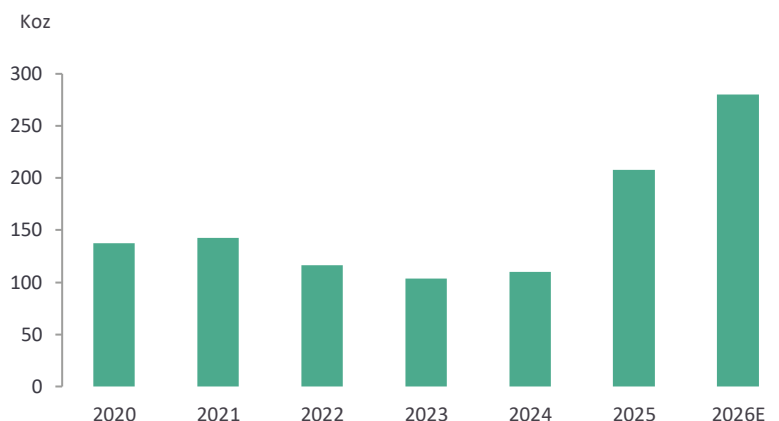
工業のプラチナ需要の構成が変化しつつあることは 2026 年を通じて明らかになりつつある。自動車のプラチナ需要が電動化による構造的な不振に直面する一方で、特にガラスや電子材などの AI インフラ関連への投資に支えられた需要分野は大きく伸びている。ただし、この分野が自動車需要の減少をどの程度補えるのか、それは今後の投資の規模とタイミングにかかっている。

我々メタルズフォーカスの『October 2026 PGM Five-Year Report』では、プラチナの工業需要は前年比で 8.0% 増加すると予測した。増加の大部分を占めるのがガラスと電子材。ガラス分野の需要の伸びは、AI サーバー、データセンター、電子機器への投資の拡大に伴うグラスファイバーの生産能力拡張が牽引し、電子材分野は AI データセンターの拡張、最先端半導体への投資増加が背景にある。こういった動きは、プラチナ需要のデマが「排ガス浄化装置」が作る需要サイクルから「最先端製品の製造とコンピューティングインフラ」が生み出すサイクルへと徐々に移行していることを浮かび上がらせている。

AI バリューチェーンに関連するプラチナの需要を生み出しているのは、高温に対する耐性、高い純度、化学的な安定性といった最先端製品の製造に求められる要件である。プラチナは最終製品に直接利用されているというよりは、その製造過程に需要があるのだ。AI のサプライチェーンでプラチナが利用されているのは次の3つの重要な領域だ。

第一に、電子グレードのグラスファイバーは AI サーバーに使われる多層プリント基板(PCB) の主要な補強材だが、そのグラスファイバーの製造過程でのドロ잉ブッシングはプラチナとロジウムの合金。1450 度を超える高温でも安定した形状と耐食性を保つため繊維径の確保が可能で、金属不純物による汚染を防ぐことができる。

電子材のプラチナの電子材



第二に、光通信における光電融合(CPO)や高速光モジュールは、ニオブ酸リチウムやタンタル酸リチウムを含む光エレクトロニクス機能性結晶に依存しているが、その結晶の育成プロセスにはプラチナのるつぼが必要だ。るつぼは金属不純物が結晶格子内に侵入して光損失や変調性能の劣化を防ぎ、光チップ製造における不可欠な消耗品だ。

第三に先端パッケージングと高性能ストレージでは、プラチナスパッタリングがハードディスクドライブ(HDD)、特に熱アシスト磁気記録(HAMR)で使用される。AI需要の急増で企業向けの大容量HDDは不足しており、ハイパースケールクラウド事業者は運用能力確保に長期契約を結んでいる状況だ。

今後、AIインフラや最先端電子機器への投資が増えるにつれて、工業のプラチナ需要にはさらなる好機が訪れるだろう。データセンターが拡張され、コンピューティング要件の高度化に伴って電子グレードのグラスファイバー生産能力が高まり、プラチナブッシング需要を後押しする可能性が考えられる。また、CPOやより高速な光モジュール(1.6T)の普及は、光エレクトロニクス結晶製造への投資を促し、プラチナ製るつぼの需要に繋がるかもしれない。ただし、プラチナ需要が成長する規模とタイミングは、新たな生産能力への投資と設備更新のサイクルに依存する。

最後に、最先端製品製造、電子材、データインフラなどAI関連分野の需要が重要なのは、それがプラチナだけでなくパラジウム、ロジウム、イリジウム、ルテニウムなどPGM全体に需要を生み出し、自動車、宝飾品、工業分野など多岐にわたるプラチナ需要の基盤を補強するからだ。しかし、AI関連の投資が持続的なPGM需要をもたらすかどうかは、採用される技術や製造能力増強の規模、そしてその後の設備更新の要件といったいくつかの要因に左右される。これらは今後の需要成長の新たな後押しとなり得るものの、その貢献度は個々のメタルや用途によって大きく異なるだろう。